

関係各位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記
令和8年度病害虫発生予報第1号（4月）

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-41-9513
ファックス 0561-63-7820

令和8年度病害虫発生予報第1号（4月）

令和8年4月6日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	県全域	前年の穂いもちの発生量はやや少ない	－
				4月の降水量は多い	＋
ムギ	うどんこ病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並	±
				3月に一部ほ場で発病葉を確認しているが、3月下旬の発生量は平年並	±
				前年5月下旬の発生量は平年並	±
	赤さび病	平年並	県全域	3月下旬調査で発病葉を確認していない	－
				4月の降水量は多く、気温は高い	＋
	赤かび病	やや多い	県全域	前年5月下旬の発生量は平年並	±
				4月の降水量は多い	＋

・防除対策

[ムギ・赤かび病]

令和8年4月1日発表の「ムギ類赤かび病情報第1号（コムギ、六条大麦）」を参考にしてください。

・留意事項

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）やイネ苗立枯細菌病は、出芽期以降の極端な高温や低温によって発生が助長されます。育苗時の温度管理などに気をつけましょう。

イネの温湯種子消毒を行う際は、定められた処理温度、時間を守りましょう（例：60℃、10分）。

スクミリングガイは、水温 15℃以上で活動を開始し、田植え後約3週間までの稚苗を食害します。防除対策等の詳細は、本日発表の「スクミリングガイ情報第1号（水稻）」を参考にしてください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	県全域	越年発病葉率はやや少ない 4月の降水量は多い	－ ＋
ナシ	赤星病	多い	県全域	前年の発生量はやや多い 4月の降水量は多い	＋ ＋
	黒星病	やや多い	県全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量は多い	± ＋
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	前年秋期の発生量は少ない 4月の降水量は多い	－ ＋
	モモハモグリガ	平年並	県全域	前年夏の発生量は平年並	±
ブドウ	黒とう病	多い	県全域	前年の発生量はやや多い 4月の降水量は多い	＋ ＋
果樹共通	カメムシ類	平年並	県全域	チャバネアオカメムシの前 年秋期の予察灯への誘殺数 は平年並 チャバネアオカメムシの越 冬調査結果は平年並	± ±

・防除対策

[ナシ・赤星病]

カナメフロアブル、セルカディスDフロアブル（収穫前日数、薬害等に注意して使用しましょう）などで防除しましょう。

[ナシ・黒星病]

スコア顆粒水和剤、セルカディスDフロアブル（収穫前日数、薬害等に注意して使用しましょう）などで防除しましょう。

[ブドウ・黒とう病]

越冬伝染源となる棚に残った巻きひげは見つけ次第、園外へ持ち出して処分しましょう。キノンドーフロアブルやジマンダイセン水和剤などで防除しましょう。

・留意事項

名古屋地方気象台4月2日発表の1か月予報によれば、気温は高いと予想されています。ウンシュウミカンのほ場におけるミカンハダニの発生状況は3月上旬調査で多い状況です。ほ場での発生状況に注意し、適切に防除しましょう。

フジコナカイガラムシは、越冬幼虫が3月下旬頃から徐々に新芽や新梢に移動します。前年の発生が多かったカキほ場では、4月中にアプロード水和剤（使用時期：開花期ま

で 但し、収穫 45 日前まで) などで防除しましょう。

ナシヒメシンクイ越冬世代の成虫がフェロモントラップで誘殺され始めています。一部地域で発生が多い状況となっています。本日発表の「ナシヒメシンクイ情報第 1 号 (モモ)」を参照してください。

果樹カメムシ類については、本日発表の「果樹カメムシ類情報第 1 号」を参照してください。

モモのせん孔細菌病対策として、春型枝病斑は伝染源になるので見つけ次第除去しましょう。詳細は「モモせん孔細菌病に対する豊橋式春型枝病斑早期切除技術」を参照してください。

(アドレス : <https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/320268.pdf>)

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
タマネギ	べと病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の降水量は多い	± +
トマト (施設)	灰色かび病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は少ない	± +
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間は少ない	- +
	すすかび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は少ない 4月の日照時間は少ない	- +
	ハダニ類	やや多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い	+
	ミナミキイロアザミウマ	多い	県全域	3月下旬の発生量は多い 4月の気温は高い	+ +
キュウリ (施設)	べと病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の日照時間は少ない	+ +
	うどんこ病	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない	-
	灰色かび病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間は少ない	± +
	ミナミキイロアザミウマ	多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い 4月の気温は高い	+ +

イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間は少ない	－ ＋
	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	アザミウマ類	多い	県全域	3月下旬の発生量は多い 4月の気温は高い	＋ ＋

・防除対策

[タマネギ・ベと病]

発病株は、周辺株だけでなく周辺ほ場への伝染源になるので、見つけ次第ほ場外へ持ち出し、適切に処分しましょう。発生を確認した場合や降雨後は、プロポーズ顆粒水和剤やメジャーフロアブルなどで薬剤防除しましょう。なお、収穫時期が近い作型では、農薬登録上の使用時期（収穫前日数）に注意して農薬散布しましょう。

[トマト（施設）・灰色かび病]

ベルコートフロアブル、ピクシオDFなどで防除しましょう。

[ナス（施設）・ハダニ類]

ダニオーテフロアブル、ダニサラバフロアブルなどで防除しましょう。

[ナス（施設）・ミナミキイロアザミウマ]

本日発表の「アザミウマ類情報第1号（ナス・キュウリ・イチゴ）」を参照して下さい。

[キュウリ（施設）・ベと病]

発病葉は伝染源になるので、見つけ次第除去し、適切に処分しましょう。発生を確認した場合は、ダコニール1000、ゾーベックエンテクタSEなどで防除しましょう。

[キュウリ（施設）・灰色かび病]

ベルコートフロアブル、ピクシオDFなどで防除しましょう。

[キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ]

本日発表の「アザミウマ類情報第1号（ナス・キュウリ・イチゴ）」を参照して下さい。

[イチゴ（施設）・アザミウマ類]

本日発表の「アザミウマ類情報第1号（ナス・キュウリ・イチゴ）」を参照して下さい。

・留意事項

キャベツやブロッコリーの黒すす病が一部地域で問題となっています。早期防除を行いましょう。また発病株は次作の伝染源となるため、収穫残さは速やかにすき込むかほ場外に持ち出し適切に処分しましょう。

トマトキバガは中山間部での越冬を確認しており、県内に設置したフェロモントラップで3月に誘殺が確認されています。ほ場内をよく見回り、本虫や疑わしい被害葉及び果実があった場合は、登録のある農薬で防除しましょう。3月23日発表の「トマトキバガ情報第3号（トマト）」も参考にしてください。

キュウリでは、3月下旬のコナジラミ類の発生量が多い状況であり、トマトでは一部ほ場で多い状況です。コナジラミ類はトマト黄化病や黄化葉巻病、キュウリ退緑黄化病の原因となるウイルスを媒介します。また気温の上昇に伴い更に増殖しやすくなるため、防除を徹底しましょう。ウイルス病は、伝染環を断つことが重要です。収穫終了後は、

残さを外に持ち出す前に施設を密閉して媒介虫を死滅させましょう。

イチゴのハダニ類は、一部ほ場で多発している状況です。発生を確認したら早めに農薬散布を行いましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮して農薬を選びましょう。

花き

・留意事項

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類が増加するので、親株床も含めて防除しましょう。

発生量及び発生時期の基準

発生量	平 年 並	平年値を中心にして 40%の度数に入る幅
	やや多い	平年並の外側 20%の度数に入る幅
	やや少ない	同上
	多 少	上記三者の外側 10%の度数に入る幅
	少 ない	同上
発生時期	平 年 並	平年値を中心にして前後 2 日以内
	やや早い	平年値より 3～5 日早い
	やや遅い	平年値より 3～5 日遅い
	早 少	平年値より 6 日以上早い
	遅 多	平年値より 6 日以上遅い

注) 平年値＝原則として直近 10 年間の平均値とする。

フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

参考

東海地方の 1 か月予報（名古屋地方気象台 4 月 2 日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。向こう 1 か月の降水量は多い見込みですが、これまでの少雨の影響が残る可能性があります。

〈向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気 温〕 低 い：10% 平年並：10% 高 い：80%

〔降 水 量〕 少ない：10% 平年並：30% 多 い：60%

〔日照時間〕 少ない：50% 平年並：30% 多 い：20%